

12月の天候

2020年（令和2年）12月の日本の天候は、北・西日本で気温が低くなりました。日本海側では、北陸地方を中心に記録的な大雪となった所がありました。太平洋側では、降水量は少なくなりました。沖縄・奄美では、日照時間はかなり少なく、降水量はかなり多くなりました。

2020年（令和2年）12月の天候の特徴は以下のとおりです。

○北・西日本では気温が低くなりました
中旬と下旬後半に強い寒気が流れ込んだため、北・西日本では月平均気温が低くなりました。

○日本海側では、北陸地方を中心に記録的な大雪となった所がありました
中旬と下旬後半に冬型の気圧配置が強まり、上空に強い寒気が流れ込んだため、北陸地方を中心に記録的な大雪となった所がありました。

○太平洋側では、降水量は少なくなりました
冬型の気圧配置となる日が多く、太平洋側では低気圧の影響を受けにくかったため、北日本太平洋側では月降水量がかなり少なく、東・西日本太平洋側では少なくなりました。北日本太平洋側では、1946年の統計開始以来12月として1位の少雨となりました。

○沖縄・奄美では、日照時間はかなり少なく、降水量はかなり多くなりました
沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすかったため、月間日照時間はかなり少なく、1946年の統計開始以来12月として1位の寡照となりました。また、月降水量はかなり多くなりました。

別紙（概況、統計値等）[PDF形式:594KB]

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko202012_besshi.pdf

問合せ先：大気海洋部 観測整備計画課 担当 村井(観測値や記録について)
電話 03-6758-3900 (内線 4277) FAX 03-3434-9035
大気海洋部 気候情報課 担当 中三川(天候の解説について)
電話 03-6758-3900 (内線 4547) FAX 03-3434-9123